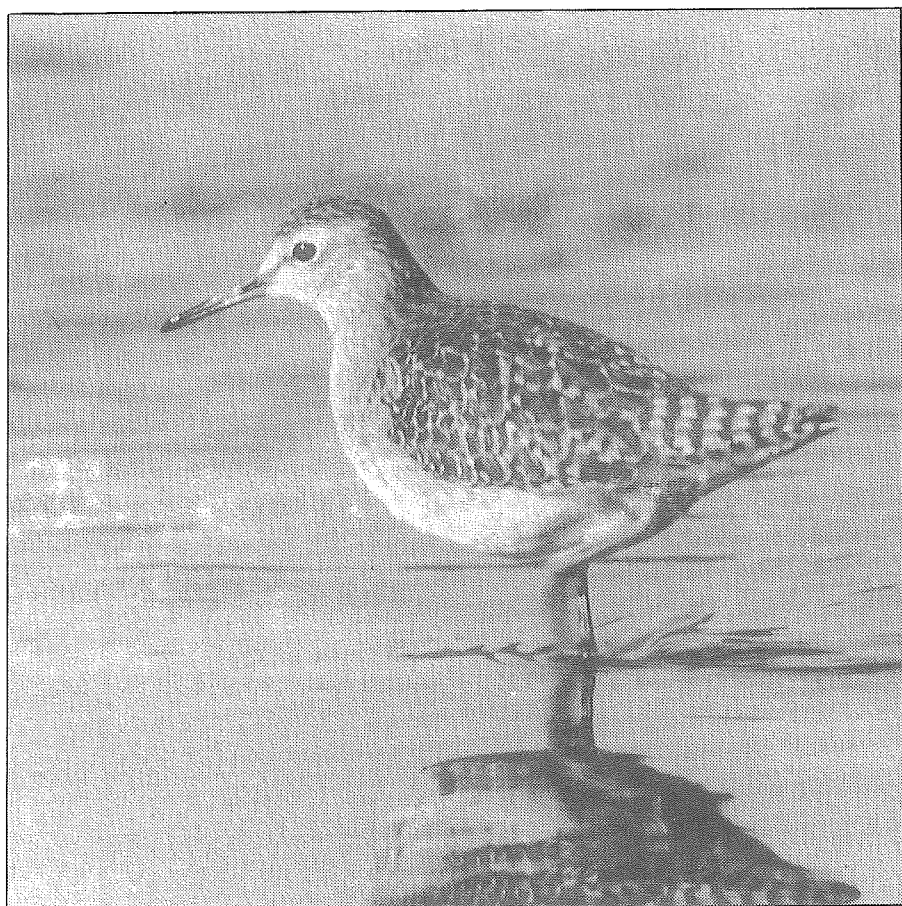


1984・9

第 4 号

しらこぼと

— 日本野鳥の会埼玉県支部 —



いつかまた来る日

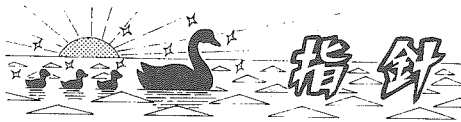
日本野鳥の会埼玉県支部副支部長 海老原 美 夫

新しい支部が発足してようやく4ヶ月。まだまだ歩き出したばかりですが、日に日にその歩みは着実さを増しています。はからずも副支部長という重責を担う事となった私も、一日一日が新たな努力の時となりました。

私達の支部の様な団体における役員の方勢としては、どういふものが必要なのでしょう。私は、会員の総意を正しく把握し、それに基いて会を運営していく事、この一見単純な事が、実は最も重要な、役員に課せられた使命だと思います。正直言つて、時にはある程度会員をリードする事も必要です。私達には、野鳥の会のあり方について、自然保護活動について、それなりの信念があるからです。

しかし、それも、会員の意思を無視した強引なリードであってはならない。やはり、会員の総意こそ会の生命であると思います。

さて個人的には——今すぐは無理であるとしても、いつかは、埼玉県内の鳥仲間達が広く手を結べる時がまた来ると信じています。もし引続いて会員からの負託があるなら、その時までこの歩みを続ける事が、私が自分に勝手に課した重要な使命だと思っています。そしてそうなった時、野鳥とのすばらしい出会いを最高のさかになに、屈託なくウイスキーを楽しむ、もとの生活に戻れると楽しみにしているのですが、そんな考えでは、いけませんか。



緑のルネサンスを！

バードウォッチングや森林浴が静かなブームといわれる。緑の危機が叫ばれる中でのこの現象は、「緑に飢えたヒト」の生物としての自己防衛本能の反映とも考えられる。

<かけがえのない地球(Only One Earth)>

1972年6月、スエーデンのストックホルムで開かれた国連人間環境会議は“Only One Earth”をスローガンとし、地球は有限であり、人間は地球上の全ての生物の一員として自然と共存すべきであるとアピールした。

同年、ローマ・クラブの報告書『成長の限界』も大きな反響を呼び、1972年は「環境元年」ともいわれた。

また、1980年7月の米政府特別調査報告書、『西暦2000年の地球』は、21世紀の人口、資源、環境について体系的な分析と予測及び問題提起を行った。

かけがえのない地球は今、二つの危機に直

面している。その第一は核戦争による全面破壊の急性危機であり、第二は人類の活動の増大と地球の有限性に伴う公害、環境問題、資源・エネルギー問題、食料問題、人口問題などを含む慢性的危機である。

「宇宙船地球号」の一乗組員として、「ヒト」はこれらの危機にどのように対応することができるであろうか。

<幼衰と自己家畜化>

慢性的危機の中の環境問題は、単に自然破壊にとどまらず、人間の肉体や精神にまで重大な影響を及ぼすに至っている。

山階鳥類研究所の柴田敏隆氏によると「近年、都市に住む子ども達のなかに、肉体的、精神的、情緒的な分野にわたる劣化現象が目立っており、この現象は幼くして既に劣えるという意味から、老衰に対して幼衰と言われ、この原因の一つとして自然疎外が考えられ、

赤シヨ-ビツル
オシヨ-ビツル



都市文明に囲われた家畜人そのものではないか」との柴田氏の指摘は、問題の本質を明確にとらえている。

<自然体験の重要性>

子ども達を「幼衰」や「自己家畜化」から解放し、人間としての成長を保証するためには、子どもの発育段階に応じた自然体験が必須であろう。

一般に、本物の自然体験は子ども達の生活圏を拡大し、環境適応能力、判断力や問題解決能力などを高め、自然への感受性を鋭くすることができると言われている。教育心理学者、深谷夫妻らの調査報告の中に「自然体験の豊富な子どもは勉強が得意で、進学の見通しも明るく、知識や技術を必要とする職業につけるであろうという明るい自己像をもっている」とある。注目すべき報告である。

<身近な自然とのふれあい>

自然体験といっても、大人によって管理された短期間のキャンプ教室などが必ずしも有効であるとは限らない。それよりも日常生活の場において、身近な草花や木、鳥や昆虫

都市化に伴う子ども達の生活環境の単純化から生じる一種の「自己家畜化現象」とも言うことができる。なるほど家畜は一般に野生種よりも大きく見かけは「立派」であり、「子ども達は、いわば

などに眼を向けることを意識的に継続することにより、新しい世界を発見する感動を味わうことができる。探鳥会や自然観察会において自然に親しみ、学び合うことは単なるレジャーを超えて、「ヒト」が人間として成長していく「緑の学校」の役割をも果しうるであろう。

<野鳥の会と価値の創造>

都留重人氏はその著書『環境教育』の中で、「自然環境の価値は、対象者である人間が作り出すものと考えるべきであり、何らかのコストをかけて価値物をつくり出す過程を「生産」と呼ぶとすれば、自然を自らにとって「価値あるもの」とする意識の涵養と行動は、一種の「生産活動」とみなすことができ、またわれわれ自身が能動的に価値物をつくり出すのだという視点は、まさに「美」に対する芸術家のそれと同じであると言えよう」と述べている。この立場に立つと、野鳥の会の活動はまさに「生産活動」として評価することができよう。

昭和9年、鳥の科学と芸術を車の両輪とした文化運動をめざして、中西悟堂氏らによって創立された日本野鳥の会は、今や創立50周年を迎え、社会的に影響力のある自然保護団体としての力量をもつに至り、今後の活躍が期待されている。その記念すべき年に新たに誕生した埼玉県支部の一会員として、全国各地の会員の皆様と手をたずさえて、自然と鳥とヒトのコミュニケーションの輪を一層大きくし、「緑のルネサンス」をめざす新しい日本の文化を創造する事業の一端を担いたいものです。

(文責・西城戸 司)

タカブシギ (シギ科)

全長21.5cm、足はオリブ黄色または黄緑色、飛ぶと尾羽と翼下面の白さが目立ちます。水辺で餌をあさりながら、時おりピョコッと尾を上下に動かします。ピョッピョッピョッピョーピョーピョーと鋭くさえた声が印象的です。秋比較的早く、7月の内から渡って来

るものもいます。普通は春と秋の渡りの時だけ見られる旅鳥ですが、近年越冬例がよくあるとの事で、浦和市の見沼地区では、多くの個体が越冬します。

(表紙の写真と文・海老原美夫)

バードウォッチング

野鳥へのアプローチ



私のフィールド案内 =茨城県・管生沼=
(すがおぬま)

中島康夫(蓮田市)

ある年の冬、白鳥を見に管生沼を訪ね、豊かな自然と、野鳥の多さにすっかり魅せられました。以来、毎月3回程通い、年間百種ぐらい観察しております。

管生沼は、茨城県の南西部、岩井市と水海道市にまたがり、南北5.5 Km、東西0.6 Kmの細長い沼で、沼地とヨシ・マコモの広い芦原からなっています。周囲には、シイ・タブ・クヌギ・ケヤキの林が多く、小鳥たちの良いすみかとなっています。

秋から冬の間、沼には、コハクチョウ(58年度39羽)をはじめ、マガモ・オナガガモ・ハシビロガモ・キンクロハジロ・オカヨシガモなど数千羽のカモが群れ、ミコアイサ・カワアイサも常連です。上空には、カモをねらうオオタカ・ノスリ・ハヤブサが飛びます。また、干潟・芦原には、タゲリ・タシギ・セキレイ類4種・オオジュリン・セッカ・ホオジロが観察され、林内には、トラツグミ・アカゲラ・アカハラ・エナガ・カラ類、時にはアトリ・イカルも来ます。

春・秋のシギの渡りの時は、沼や水田で、

ツルシギ(100羽)・アカエリヒレアシシギ・チュウシャクシギ・アカアシシギ・キョウジシギ・ムナグロ(チドリ科)など、多くのシギが見られます。夏には、オオバン・バン・カルガモ・カイツブリ・ヨシゴイ・オオヨシキリなどの一大繁殖地となり、ヒナを連れた多くの鳥たちを見ることができます。

冬の時季、白鳥が野生の姿で間近に見られます。会員の皆さん、ぜひ一度、管生沼を訪ねてみてください。

<交通> 交通の便が悪いため、なるべく車の利用をおすすめします。

バス利用の場合＝東武野田線・野田市駅下車－東武バス岩井行(40分)→七郷農協支所前下車で徒歩30分。

自動車の場合＝大宮から国道16号利用、野田で岩井方面へ左折し、芽吹大橋(利根川)を渡り、1 Km程で右折、1 Km程進行すると沼の南側 ※大宮から35 Km。

(日本野鳥の会発行「日本の探鳥地777② <関東・中部編>」32、33ページに掲載)

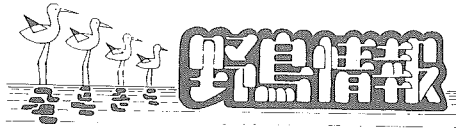
県民の森でサマースクール

熊谷青年会議所主催のサマースクールが、7月27日から29日までの3日間、秩父の青少年野外活動センターで開かれ、28日には本支部と秩父愛鳥会とが協力して、県民の森で野鳥観察会を実施。

秩父愛鳥会から8名、本支部から9名の指導員が参加し、熊谷市内の小学生約120名の観察を指導した。小学生たちは、クログミなどの声に耳をすまし、指導者の説明を興味深く聞き入り、特に巣箱の中のシジュウカラ

のヒナには「カワイイ」と興奮。自然の中で野鳥を自らの目と耳でたしかめていた。





フクロウ ◇3月5日午後9時25分から約15分間、熊谷市石原の自宅2階から、近くの電線上の1羽を、凶鑑と照し合わせながらゆっくり観察。(堀越照雄)

カッコウ ◇7月1日午前7時30分、浦和市大間木芝川ぞいの電線に1羽。(為貞貞人)

ヒクイナ ◇7月5日午後4時20分、浦和市大間木通船堀横の水田にいる1羽を、雨の中で観察。(為貞貞人)

イソギ幼鳥 ◇7月15日、浦和市三室の芝川で2羽。(探鳥会参加者)

タカブシギ ◇7月22日午前7時ごろ、浦和市三室の芝川で1羽。(楠見邦博)

コムドリ ◇7月23日、浦和市三崎で1羽飛んでいるのを見て、7月24日、その近くの梢から10羽位が飛立つのを見た。(仲島浩)

ジシギsp ◇7月23日、大宮市山地区で1羽、

採餌しているのを観察。(仲島浩)

カワセミ ◇7月24日、大宮市山地区の水路で1羽。(仲島浩)

ツバメの群れ ◇7月24日午後6時45分ごろ、浦和市白幡沼で30羽位。(海老原美夫)

◇7月28日午後5時ごろ、日高町巾着田で50羽位。(県民の森自然観察会リーダー達)

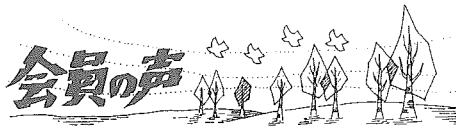
ハチクマ ◇7月28日午前9時ごろ、横瀬村県民の森で2羽。(前同リーダー達)

予報コーナー

台風のち珍鳥 台風の後には、珍鳥が出ます。

思いがけない海の鳥や、渡り途中の鳥をはるばると連れて来てくれるのです。ありがたいくない台風がもし来ちゃったら、家のあと片付けをしてから、珍鳥をさがしに行こう。(被害のない事を祈りながら)

アメリカシロヒトリにカッコウ アメリカシロヒトリが発生した桜の木には、それを食べるに、カッコウ、ツツドリ、ホトトギスが来ます。さえざらないので、識別に注意。



先日、県民の森での探鳥会の折、地元の秩父愛鳥会の方に「シジュウカラのヒナを見ませんか」と声をかけられ、「エッ、見てもいいんですか。」なんて言いながら、見たいという誘惑に抗しきれず、木立に懸けてある巣箱の中を、そっと、そっとのぞいてみました。

私にとっては、シジュウカラのヒナをこの目で見るなんて初めてのことでした。それはある種の感動でした。

頭上ではエサをくわえた親鳥が、警戒音を発しながら飛び回っていました。なんだからってもし訳ないような、一方ではチョッピリ満足したりして、なんとも複雑な気持ちでした。私達はその場を離れた後に、親鳥が巣箱に戻ったのは確認しましたが、こんなとき、もし貴方でしたらどうします？

草間和子(浦和市)

(会費と共に3,000円を送金して下さい、その通信欄に)差し入れ。事務局でのジュース代です。寄付ではありません。

H.Y(世田谷区)

(連日の猛暑にありがたいおことば。遠慮なく頂戴しました。事務局ボランティア一同)

はじめの内は、ただ夫の趣味だと思っていたのですが、いつの間にか私もバードウォッチングに夢中。野鳥の会の活動にも強く心をひかれ、ついに夫婦そろって会員に。様々な人達と知合いになれた事も大変うれしく思います。今後ともよろしく。

楠見文子(浦和市)

自宅の庭に巣箱をかけて3年目。今年始めてシジュウカラが繁殖。8月10日現在、親はいそがしく出入りし、ヒナの声がピーピー聞こえています。顔を出す日が楽しみです。

高橋正美(浦和市)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会当日の受付です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円です。

9月16日(日) 浦和市 三室地区(浦和市
立郷土博物館共催)

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:
19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)ま
たは午前9時市立郷土博物館前集合。
午後1時頃解散。参加費は無料。見沼の
渡り鳥を、最初に見つけるのは誰ですか。
(担当・西城戸司)

9月23日(日) 千葉県 谷津干潟(千葉、
栃木、埼玉の3支部合同)

午前8時15分 武蔵野線南浦和駅西船
橋方面行ホーム中央付近集合(熊谷7:
19発→浦和8:08→京浜東北線乗換/北
朝霞8:04発→南浦和8:09着/南越谷7:
50発→南浦和8:04着)8:26発西船
橋行乗車→9:12西船橋着→総武線乗換
で津田沼下車、秋津・香澄団地行バスで
津田沼高校前下車、ここで千葉県支部の
人たちと合流。午後2時ごろ解散。渡り
途中のシギ・チドリをたっぷり観察。
(担当・海老原美夫)

9月24日(月、振休) 寄居町 鐘撞堂山

午前9時寄居駅北口集合(大宮7:31
発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗換熊谷8:
19発→寄居8:48着/東武東上線志木
7:38発→川越7:50発→森林公園乗換
→寄居8:45着/八高線東飯能7:37発
→寄居8:39着)午後2時ごろ解散。山
頂で、サンバをはじめとするタカ類、ヒ
ヨドリ、カケスなどの渡りを見ます。
(担当・田村照治、石井生高)

10月7日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分 秩父鉄道大麻生駅集合
(大宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄
道乗換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩
父鉄道寄居8:22発→大麻生8:40着)12
時ごろ解散。秋の渡りの真最中、思いが
けない鳥との出会いがあります。集合時
間が少しかわりました。(担当・鈴木忠
雄、堀越照雄、今井明巨)

10月14日(日) 本庄市 阪東大橋

午前9時30分高崎線本庄駅改札前集合
(浦和8:13発→大宮8:19→熊谷9:02→
本庄9:27着/寄居8:22発→熊谷8:49着
乗換/川越7:40発→大宮8:10着乗換)午
後1時頃解散。ショウドウツバメやノビ
タキなど、南へ帰る夏鳥達に別れをつけ
ます。(担当・田村照治、石井生高)

10月21日(日) 浦和市 三室地区(浦和
市立郷土博物館共催)

集合場所などは9月16日と同じ、参加
費無料の定例探鳥会。この時季、1ヶ月
ごとに大きな変化があります。気の早い
冬鳥が姿を見せませす。(担当・西城戸司)

10月29日(月) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時赤羽駅京浜東北線ホーム北端
(川口寄り)集合。(前回までと集合場
所がかわりました。)赤羽始発の電車に乗
って品川駅まで行き、品川駅東口からバ
ス、午前9時半ごろ大井野鳥公園着。長
い旅を終えたカモ達が、次々と到着して
います。エクリプスの勉強には絶好の機
会。(担当・佐々木勉)

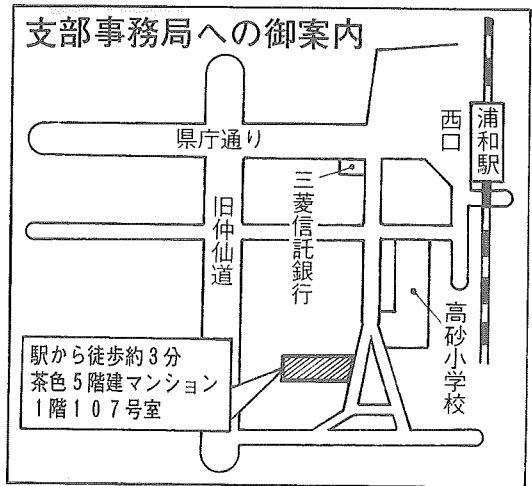
探鳥会報告

7月15日(日) 浦和市 三室地区

△ 31人 天気 曇時々雨 鳥 カルガモ コジュケイ コチドリ イカルチドリ インシギ シラコバト キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上24種 (途中雨に降られて一時木陰に避難する一幕もありましたが、最後に見られたカルガモのヒナ達のかわいかった事。インシギの幼鳥も印象的。運の良い人は、頭上を駆けぬけるカワセミと、葉陰のメジロも見られました)

8月5日(日) 宝登山(秩父愛鳥会共催)

△ 40人 天気 晴 鳥 コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上19種 (秩父愛鳥会からはリーダーが3人、会員と



その家族が8人参加、宝登山神社でムササビの巣とキツツキの穴を見てから出発。その日熊谷で最高気温35度を記録した暑い中を、汗となごやかな笑いと共に、約2時間で山頂まで。最年少4才の女の子まで無事到着。途中愛鳥会の設置したシジュウカラの巣箱も観察。秩父愛鳥会は、秩父市を中心に20年にわたる自然保護活動の実績ある団体で、鳥獣保護員を中心に、密猟パトロール、巣箱の管理などの活動を積極的に推進。今回、本支部との間に友好関係が確立され、協力して埼玉の野鳥の保護に努めていく事が確認されました)

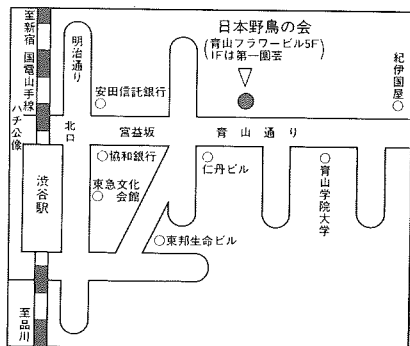
BIRD SHOPで探鳥しませんか!

本、インテリア、バードウォッチング用品、鳥づくしのお店です。SHOPの中であなたの大好きな鳥を探して下さい。ビデオテレビも備えつけ、いつもあなたをお待ちしております。

SHOP催し物予定

- 9、10月はステッカー特集と大バーゲンセール。
- 11、12月はミニサンチュアリのモデル展示とギフト用品セール。

営業時間：月～土曜 10～17時 (祝日は休み)
財団法人 日本野鳥の会 BIRD SHOP (担当・広瀬)
〒150 東京都渋谷区渋谷1-1-4 ☎03(406)7141





シギ・チドリ類全国一斉調査

日本野鳥の会が11年前から実施しているシギ・チドリ類全国一斉調査は、春と秋に日本に渡来するシギ・チドリの種類と個体数を、全国的レベルでカウントし、その環境を把握する調査です。この調査結果がシギ・チドリ類と、その生息する自然環境の保護に果たす役割は、はかり知れないものがあります。

と言っても、それほどむずかしいものではありません。ビギナーもベテランも参加できます。全国のアマチュア・バードウォッチャーが力を合わせて実施している調査ですから、もちろんあなたにもできるのです。参加をしませんか。基本的には、ある一定の地域内に、シギやチドリ類の、どんな種類が何羽いたかをかぞえて歩くだけの事なのです。

今年も、9月15日に実施されます。事務局まで御連絡ください。調査について歩いてみるだけでも、という方も歓迎です。

本部の会員になりませんか

支部の会員になっているが、まだ本部(日本野鳥の会)の会員になっていない方、本部にも入会をしませんか。本部会員になれば、毎月雑誌『野鳥』が送られてくるほか、様々な特典が得られます。

ご寄付にお礼

次の方々からご寄付をいただきました。あり

がとうございました。(敬称略・50音順)

塩野谷静子 2,000円、鳥光てる 4,000円

現在の会員数

8月20日現在で362人です。

事務局日誌

- 7月10日 西友新上福岡店、浅井氏、加藤氏来局。バードウォッチングコーナーへの協力要請。
- 7月17日 埼玉新聞社販売部長、岡本氏ら来局。今後の協力態勢協議。
- 7月19日 電々公社野鳥の声テレホンサービスに関する問い合わせなどが殺到(4日間で50件以上)。テレホンサービスの利用も1日最高1,000件以上。
- 7月26日 『しらこぼと』8月号校正。
- 7月30日 『しらこぼと』8月号発送。
- 8月3日 第4回役員会
- 8月8日 本部の総務部、研究部、指導部、事業部との打合せ。

編集後記

今号が会員の皆さんに届けられたころ、秋風は立っているだろうか。

猛暑の連日、昼間は職場でのクーラーに、夜中は暑いので、窓を開けて眠っていると明け方の涼気、いつの間にか、身体だけが冷やされたようで、断続的にお腹が下る。真夏には、暑い環境の方が身のためだ。文明の利器=クーラーによる“冷房病”にでもかかったのか、とフウフウして……。

いよいよ、シギ・チドリの渡り期、干潟へ行って、涼風にも打たれれば体力増強。

(8月12日 長野 博行)

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下 静一

『しらこぼと』	1984年9月号(第4号)	頒価100円(会費に含まれます)
	発行人 今井 昌彦	発行所 日本野鳥の会埼玉県支部
発行所事務局	〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号	
	電話 0488(32)4062	
	郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金 316990	
印刷所	埼新印刷株式会社	